

**TNC**  
**通信**

2021  
3月号

【丑(う)年  
アラカルト】

「九牛の一毛」  
多くの牛の中の一  
本の毛。多くの中  
のごくわずかな数  
で、物の数にも入  
らない譬え。司馬  
遷の言に「私が死  
刑にされたとしても『九牛の一毛を失うが如し、螻蛄(ろうこぎ=虫けら)と何を以って異ならん』とある。



「福寿草」小出ますみ  
看看!! 春天来了  
我的院子里  
我非常愉快!

「中国語講座」について

コロナ禍の中、富ヶ丘公民館に集っての学習が当分、無理なので、現在、横山講師を中心に“星期六”のLineでクイズ形式の中国洒落言葉を継続して学習しています。毎週土曜日。



# 東日本大震災から 10 年!

友好の絆を再確認

2月13日午後11時7分発生の大震災。一瞬、10年前の東日本大震災が脳裏によぎりました。宮城県南部ではM7.3、震度6強が観測されました。しかし今回の大震災も10年前の余震であり、今後10年間も余震の範囲という報道に、改めて驚かされました。

〈2011年3月11日の記憶〉

§ 温家宝首相とパンダ

日中韓首脳会談で来日。5月21日、仙台空港に到着し、名取市を訪問、知事・市長から被災状況を聞くとともに避難所を視察。生活用品を送り、子供達にはパンダのぬいぐるみを手渡した。“実物のパンダを”と県協会もパンダ誘致の運動を開始した。

§ 水餃子の提供

5月29日、県協会では学友会等と共同で女川町の二か所の避難所を訪問し、水餃子の炊き出しを行った。テントを張り、大鍋で2000個(約200人)の水餃子をゆでて昼食として提供し、大変、感謝された。

§ 中国や国内協会からの励まし

数多くの義援金やメッセージが県協会にも寄せられた。翌日12日には中日友好協会・宋健会長からのメッセージ、吉林省对外友好協

会や植林訪問地の双遼市第3小・中学校及び江蘇技術師範学院から励ましの寄せ書き入りの横断幕も含め22件、国内の日中関係の団体・個人14件が届けられ、大きな励ましとなった。また

§ 女川町・佐藤水産の事

地震から30分後、津波が到来—佐藤水産の佐藤専務は中国人研修生20名を会社近くの高台に無事に避難させものの、水かは命を落とした。温首相は“災難を前に、どこの国の人とかを考えなかった。みんな友人、親戚だという考えだった。高く称賛したい。日本の皆さんの中国人民への友好感情を感じる事ができた”と。このエピソードは中国国内に伝わり、1年後、研修生が佐藤水産に戻ってきた。この報道に友好の絆が更に強くなった。

§ 被災地への訪問

震災に学び、多くの人に伝えたいと、長野県日中友好協会、愛知県安城市の協会、東京都女性委員会の方々が県協会役員のご案内で仙台市や石巻市を訪問視察し、意見交換を行った。



写真⑤は県協会・学友会等による女川町でのボランティア活動

	死者	行方不明
宮城県	9543人	1215人
全国	15899人	2526人

※2021年2月11日現在

『傾城の恋／封鎖』

張愛玲著(藤井省三訳、光文社古典文庫946円)

2年前の発刊。著者は魯迅と並び評される女性作家。5篇の短編と自伝的エッセーから成る。

“傾城”は家父長制下の没落名家のバツイチ女性と英国育ちの華人資産家との愛。背景(解説を先に読むのをお勧め)に日中戦争と香港戦争(英領への日本の攻撃)がある。中国での女性の自立と戦時下であるが故の愛を描いてお勧め。

